

木徳神糧株式会社

2008年12月期決算説明資料

2009年3月6日(金)

本日の内容

■ 2008年12月期業績の報告並びに 2009年12月期の業績予想

取締役

管理部門副部門長

いよだ なおき

伊豫田 直記

■ 今後の経営について

代表取締役社長

ひら やま

平山

まこと

惇

2008年12月期業績の報告並びに 2009年12月期の業績予想

取締役
管理部門副部門長
伊豫田 直記

目次

1. 連結損益計算書
2. 連結セグメント別損益
3. 連結貸借対照表
4. 連結有利子負債残高の推移
5. 連結キャッシュフロー
6. 個別(単体)の概況
7. 株主還元方針
8. 2009年12月期の業績予想

1. 連結損益計算書

単位:百万円

項目	08年12月期実績	07年12月期実績	増減	(参考)期初予想
売上高	100,626	98,515	2,111 (2.1%)	92,897
営業利益	1,307	831	476 (57.3%)	840
経常利益	1,187	717	470 (65.6%)	616
当期純利益	880	715	165 (23.0%)	564

前年同期比の主要増減要因

売上高: 食品事業(鶏肉・コメ加工食品)
飼料事業(穀類・糟糠類・その他飼料原料)の増加

営業利益: 国内精米販売の拡大、製造コストダウン

経常利益: 営業外損益は前年並み

当期純利益: 特別損益 △51、法人税等及び調整額 231増

注: 数値は百万円以下切捨てとなっております。

2. 連結セグメント別損益

単位：百万円

項目	08年12月期実績		07年12月期実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
連結合計	100,626	1,307	98,515	831	2,111	476
米穀事業	79,702	1,824	81,135	1,253	△1,433	571
食品事業	9,803	90	7,694	144	2,109	△54
鶏卵事業	6,684	126	6,514	132	170	△6
飼料事業	4,435	220	3,171	211	1,264	9
消去又は全社	-	△953	-	△911	-	△42

注：数値は百万円以下切捨てとなっております。

3. 連結貸借対照表

単位: 百万円

項目	08年12月期 実績	07年12月期 実績	06年12月期 実績	07年と08年 の増減	注記
流動資産	18,408	15,890	15,432	2,518	たな卸資産 1,866 売掛金 1,151 現預金 △493
固定資産	8,905	9,727	10,242	△822	減価償却費 △680
資産合計	27,313	25,618	25,675	1,695	
流動負債	19,123	16,710	15,360	2,413	買掛金 1,906 未払金 194 短期借入金等 74
固定負債	3,463	4,804	6,815	△1,341	長期借入金 △998 社債 △199
負債合計	22,587	21,515	22,176	1,072	
純資産合計	4,726	4,102	3,499	624	
負債純資産合計	27,313	25,618	25,675	1,695	

注: 数値は百万円以下切捨てとなっております。

4. 連結有利子負債残高の推移

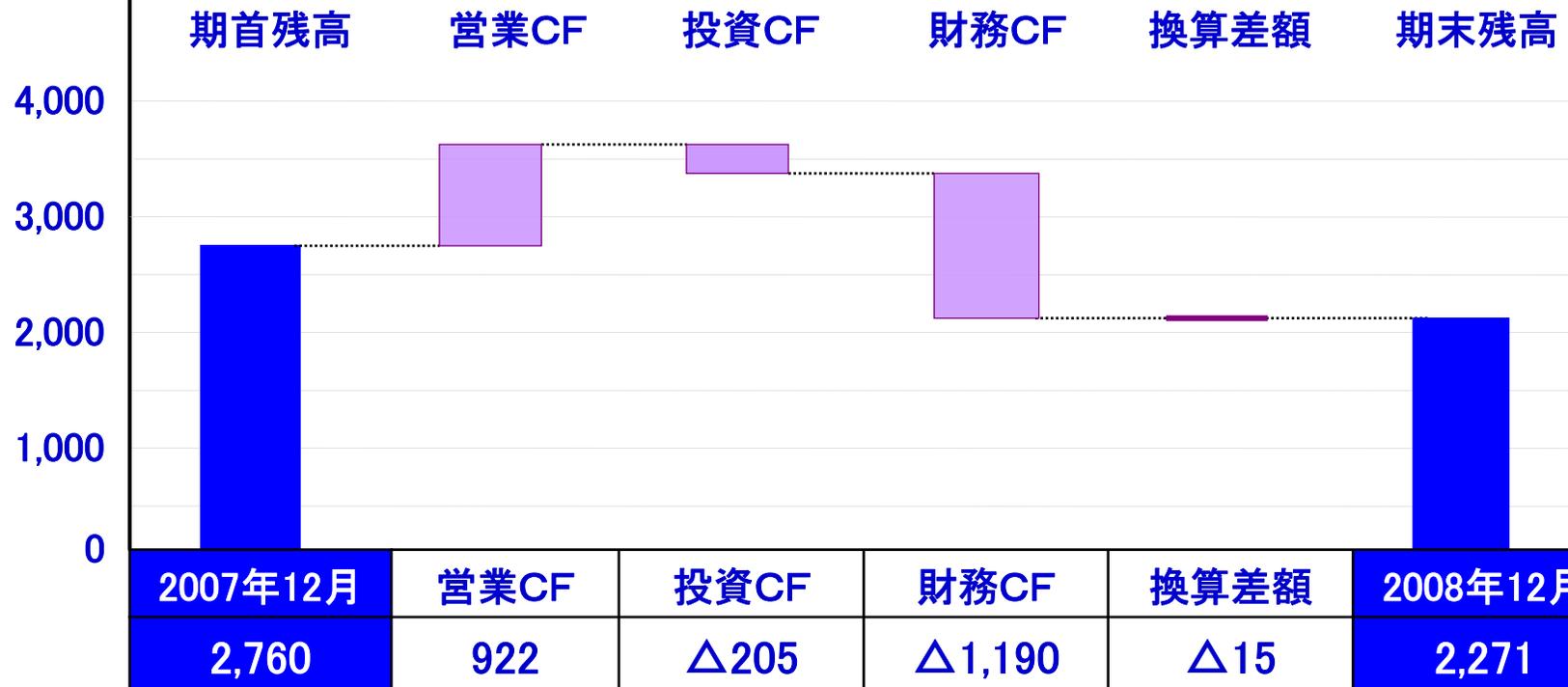
単位：百万円



注：数値は百万円以下切捨てとなっております。

5. 連結キャッシュフロー

単位:百万円



営業CF: 税金等調整前純利益 1,109 仕入債務 1,907 減価償却費 680
 たな卸資産 △1,894 売上債権 △1,158

投資CF: 設備投資額 △175

財務CF: 長期借入金 △1,463 社債 △158 短期借入金 501

注: 数値は百万円以下切捨てとなっております。

6. 個別(単体)の概況

単位:百万円

損益計算書抜粋	08年12月期実績	07年12月期実績	増減	(参考)期初予想
売上高	82,252	77,483	4,769	75,282
営業利益	1,109	650	459	675
経常利益	911	495	416	450
当期純利益	780	893	△113	465

貸借対照表抜粋	08年12月期実績	07年12月期実績	増減
流動資産	14,003	11,872	2,131
固定資産	7,250	7,978	△728
資産合計	21,254	19,851	1,403
流動負債	14,931	12,834	2,097
固定負債	2,525	3,767	△1,242
負債合計	17,456	16,601	855
純資産合計	3,797	3,249	548
負債純資産合計	21,254	19,851	1,403

注:数値は百万円以下切捨てとなっております。

7. 株主還元方針

期末配当では1株につき3円(当初予想より1円増配)とし、中間配当3円を加えて年間6円を予定しております。

参考:前年通期は1株につき6円(うち記念配当2円)でした。

<利益配分方針について>

当社は、安定的な経営基盤確保のため、内部留保のより一層の充実を目指す一方、株主に対する利益還元について、安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としております。

8. 2009年12月期の業績予想

単位:百万円

項目		09年12月期 予想	08年12月期 実績	07年12月期 実績	08年と09年 の増減
売上高	連結	113,000	100,626	98,515	12,374
	単体	92,900	82,252	77,483	10,648
営業利益	連結	1,160	1,307	831	△147
	単体	920	1,109	650	△189
経常利益	連結	930	1,187	717	△257
	単体	760	911	495	△151
当期純利益	連結	530	880	715	△350
	単体	450	780	893	△330

注: 数値は百万円以下切捨てとなっております。

今後の経営について

代表取締役社長

平山 惇

目次

1. 経営理念及びキーワード
2. 当社を取り巻く経営環境
3. 経営計画の進捗と今後の方針

1. 経営理念及びキーワード

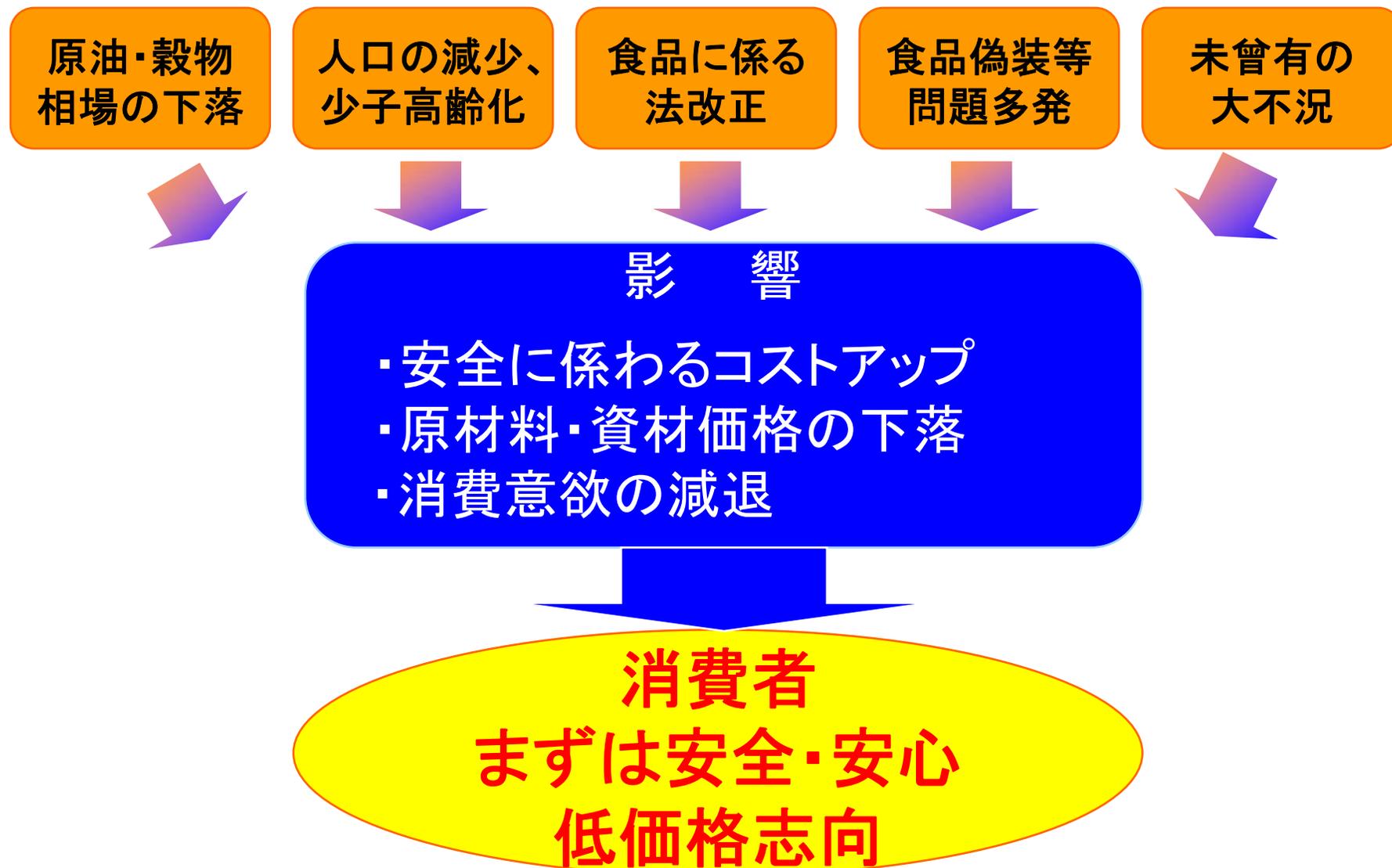
キーワード

- ・ チェンジ
- ・ 存在意義

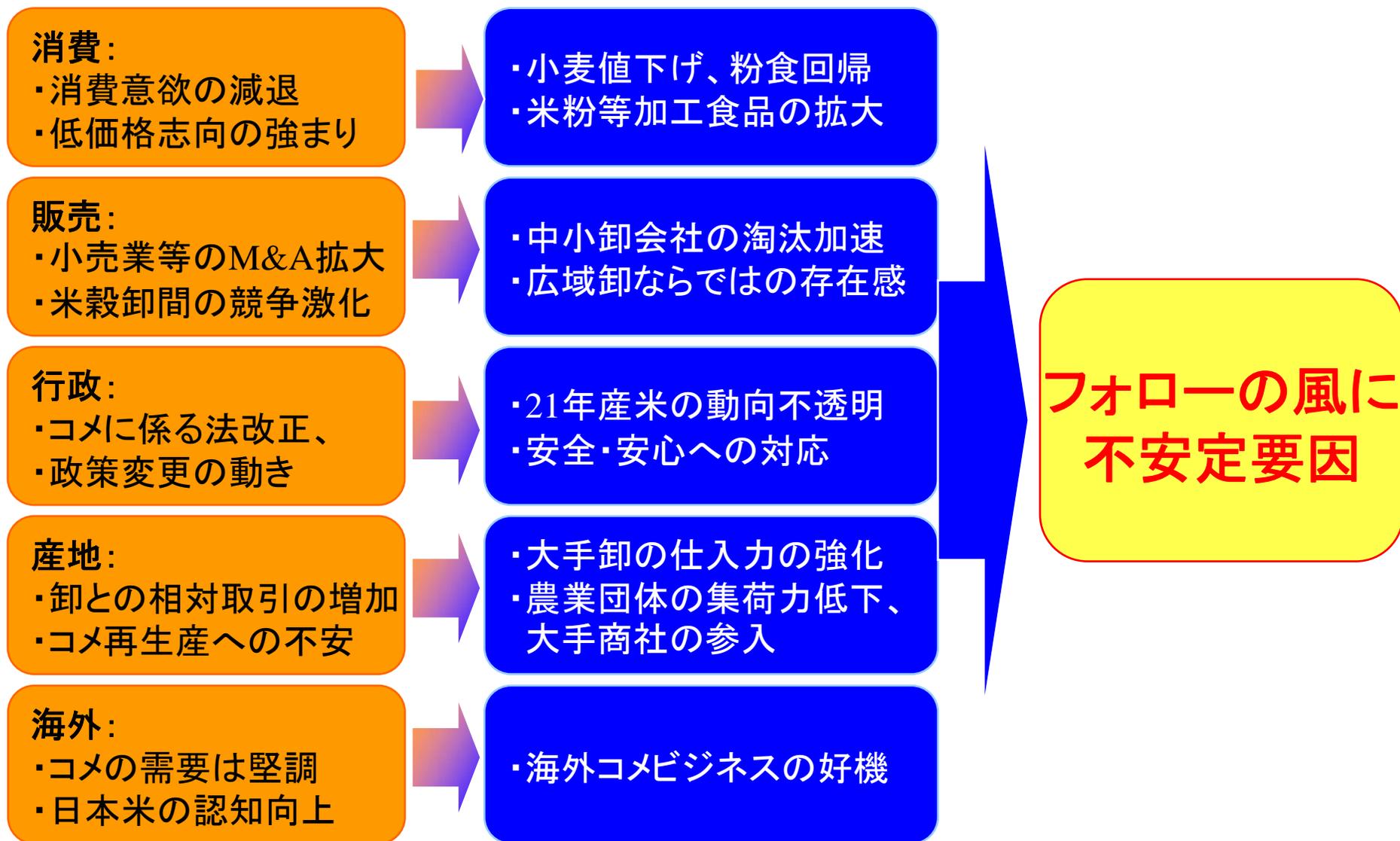
経営理念

お客さま、株主、地域社会などのステークホルダーを重視するとともに、組織の活性化や従業員のモチベーション向上を図り、「食」というフィールドを通じて企業の成長と社会への貢献を実現したい。

2-1. 当社を取り巻く経営環境（食品業界全体）

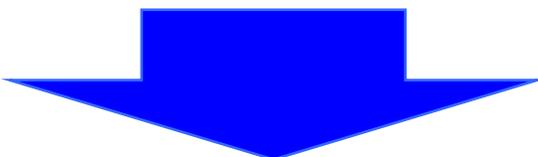


2-2. 当社を取り巻く経営環境(コメに係わる事業)



3. 経営計画の進捗と今後の方針(総論)

「攻めの経営」の堅持



1. 広域米穀卸としての確固たる地位の確保
2. グローバルなコメビジネスの展開
3. 新しい販売チャネル・用途の開拓、
付加価値商品開発の強化
4. 特徴ある飼料事業の強化

3-1. 経営計画の進捗と今後の方針

広域米穀卸としての確固たる地位の確保(1)

◆既存取引先におけるシェア拡大

- ・食と生活に着目した提案型営業の強化
- ・各取引先におけるシェアNO.1を目指す

◆新規取引先獲得の強化

- ・2008年12月期は月間500トンベース増を達成
- ・2009年1月大阪市に営業拠点を新設

3-1. 経営計画の進捗と今後の方針

広域米穀卸としての確固たる地位の確保(2)

◆生産体制の再構築

- ・2008年12月期精米製造コスト約8%ダウンを実現
- ・全国にある精米拠点の見直しに着手

◆グループ品質管理のレベルアップ

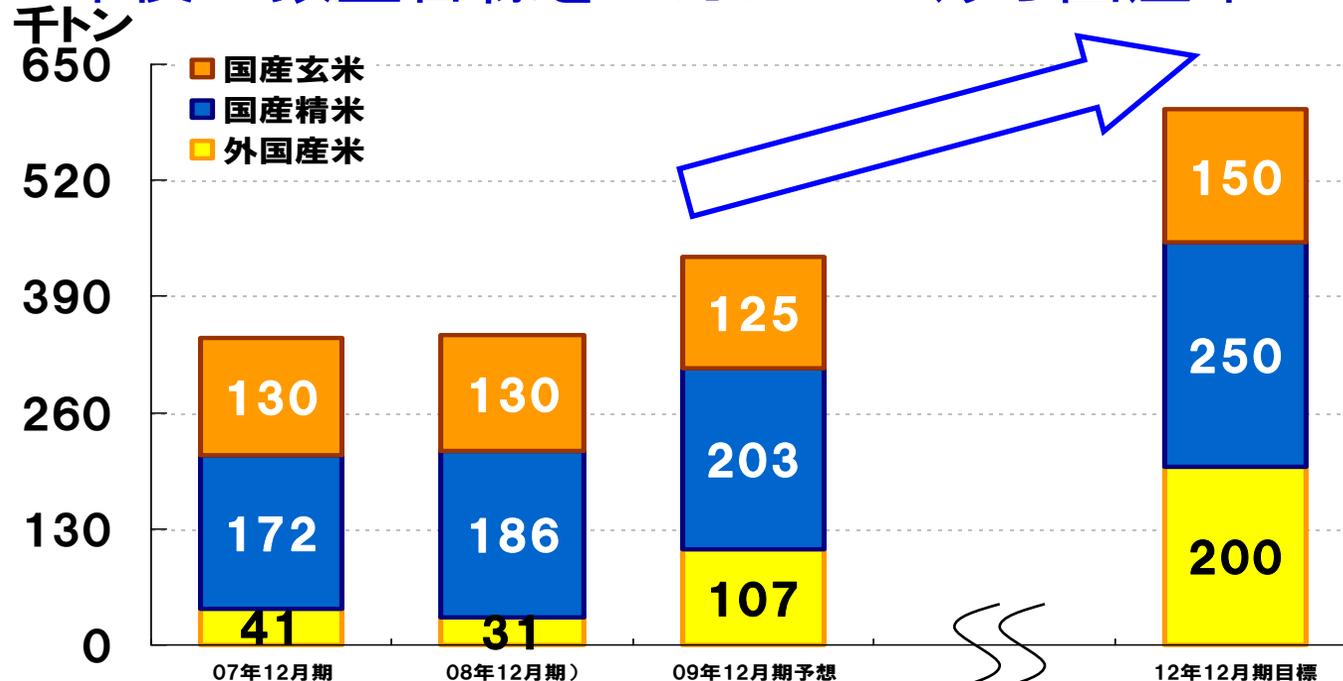
- ・管理手法等の統一、高性能評価機器の導入

3-1. 経営計画の進捗と今後の方針

広域米穀卸としての確固たる地位の確保(3)

◆グループ販売規模の拡大

4年後の数量目標を60万トンへ(うち国産米40万トン)



3-2. 経営計画の進捗と今後の方針

グローバルなコメビジネスの展開(1)

◆ 海外市場向けの三国間貿易の強化

- ・ベトナム産ジャポニカ米、タイ産米等、海外で生産されるコメを東南アジアをはじめ、ヨーロッパ等を向けに販売拡大



ベトナムでの乾期作の
田植え指導

- ・2009年12月期はベトナム産ジャポニカ米を前期の約3倍の7千トンへ(精米ベース)
今後1万トンの販売数量を目標に



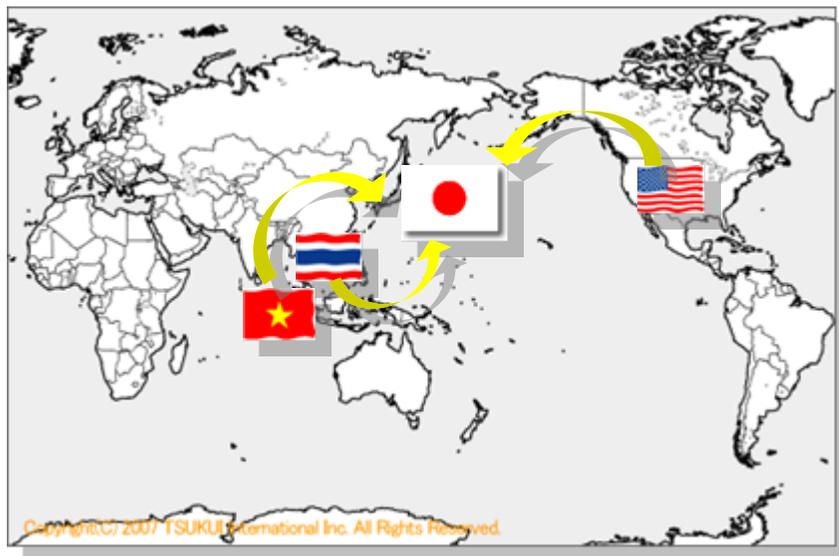
ベトナムでの乾期作の
収穫風景

3-2. 経営計画の進捗と今後の方針

グローバルなコメビジネスの展開(2)

◆MA米取扱の拡大

- MA米(SBS米を含む。)取扱数量の拡大
- ベトナム、タイ、アメリカの現地シッパーと連携強化



MA(ミニマムアクセス)米とは、
日本政府が高関税を課して輸入を制限する代わりに、
最低限輸入する量の外国産米を指します。
年間数量約767千トンとなっています。

SBS米とは、
MA(ミニマムアクセス)米のうち、輸入業者と
卸業者が連名で売買同時入札を行う方式の
外国産米を指します。年間数量10万トンの割当て。

3-2. 経営計画の進捗と今後の方針

グローバルなコメビジネスの展開(3)

◆海外拠点の充実

タイ

- ・キトク・タイランドの設立(2008年2月)
- ・現地における契約栽培の試行

ベトナム

- ・生産能力拡大のための設備投資
- ・販売拡大に対応する製販体制の強化

カンボジア

- ・雨期におけるジャポニカ米契約栽培の試行

アメリカ

- ・キトク・アメリカのMA(SBSを含む。)米取扱の拡大

3-3. 経営計画の進捗と今後の方針

新しい販売チャネル・用途の開拓、 付加価値商品開発の強化(1)

◆ 機能性コメ加工食品の販売拡大

- ・2008年8月保存食の低たんぱく米「梅がゆ」発売
災害等で腎不全患者等の食事ニーズに対応



お客様の声から生まれた
社会貢献型のアイテム「梅がゆ」
好評発売中

3-3. 経営計画の進捗と今後の方針

新しい販売チャネル・用途の開拓、 付加価値商品開発の強化(2)

◆米粉の販売拡大

- ・メニュー提案等による息の長い米粉需要の創出
食料自給率の向上に貢献
- ・平成21年産より契約栽培を試みる



米粉入りの多彩なメニュー
おいしさが決め手



新潟製粉工場



気流粉碎米粉



気流粉碎ライン設備

3-3. 経営計画の進捗と今後の方針

新しい販売チャネル・用途の開拓、 付加価値商品開発の強化(3)

◆「e顔*食卓プロジェクト」の本格始動

- ・2009年3月「おこめにすすもう」シリーズ第一弾発売
メタボ対策(カロリーー15%低減)、使いきり1合パック



主食のごはんで
おいしくカラダサポート

おこめにすすもう

e顔*食卓プロジェクトとは、

アルファー食品(株)、大塚食品(株)、(株)神明、
当社の4社の経営資源を有効活用し、共同ブランドの下、
生活者のニーズを捉えた付加価値の高い商品開発を
展開するプロジェクトです。

ブランドコンセプトは、

「おこめにすすもう」ブランドを通じ、「生活とお米の新しい
関係、新しい付き合い方」を提案します。

プロジェクト名の意味は、

「e顔」は「笑顔」「良い顔」「エコロジーの顔」を意味し、
食を通じて「e顔」の実現を目指します。



3-3. 経営計画の進捗と今後の方針

新しい販売チャネル・用途の開拓、 付加価値商品開発の強化(4)

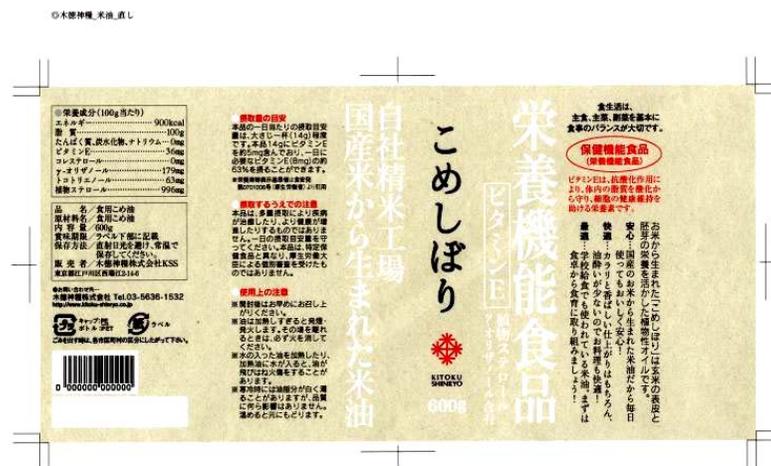
◆米糠の新たな価値創造

・2008年11月こめ油「こめしぼり」発売

自社精米工場の純国産原料使用、トレーサビリティ管理



健康でヘルシー
安全・安心できる商品



大手量販店、スーパー等で
好評発売中

3-4. 経営計画の進捗と今後の方針

特徴ある飼料事業の強化

◆米糠の価値創造

- ・付加価値を最大限に引き出すビジネスモデル
（米糠→こめ油→脱脂糠→飼料原料）
- ・グループ外との取引の拡大

◆環境にやさしいビジネスへのチャレンジ

- ・食品残渣物に関する循環型ビジネスの強化
菓子、パン等の残渣物を粉状で乾燥し飼料原料に

3-5. 経営計画の進捗と今後の方針(まとめ)

以上4つの重要な経営課題の実現

「量」と「質」の両面での持続的な成長

お問い合わせ先

◆IRお問い合わせ責任者

取締役管理部門副部門長 伊豫田 直記(いよだ なおき)

TEL 03-5636-1501

FAX 03-5636-1601

Email n-iyoda@kitoku-shinryo.co.jp

◆IR及び広報担当部署

管理部門管理部 企画室

TEL 03-5636-1502

FAX 03-5636-1601

Email info@kitoku-shinryo.co.jp